

1 中期学校経営方針

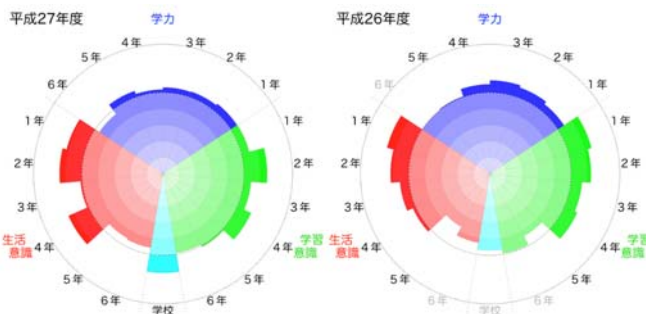
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>「人間関係の育成・学力の向上を目指す学校」「生命・安全、規範意識等を大切にする学校」「使命感をもつ教員がいる学校」「地域社会のネットワークを生かす学校」を指針とする、桜岡小チーム力を伸ばします。</p> <p>○子供一人一人が共に生きることを喜び、かしこく、たくましく生きることができるよう、人間関係をはぐくみながら、思考力・判断力・表現力をはぐくみ、基礎学力をしっかりと身に付けさせるようにします。</p> <p>○子供一人一人に、善いもの・美しいもの・尊いものに憧れる豊かな情操と、規範意識をはぐくみ、自分の生き方を見つめる力を育てます。</p> <p>○教職員のチーム力を向上させ、学校運営協議会・P T A・桜岡学援隊との円滑な連携を組み、地域に根ざした安心・安全な学校づくりを推進します。</p>

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
担当	確かな学力	主体的・協働的な学習の実現 学び合いを通して、自分の考えを伝えられる子の育成を目指す。	①国語科を中心に、相手と目的を意識した言語活動を通して確実な学力の向上を目指す。 ②学習過程の工夫、学び合いの環境づくり、学び合いの仕方を工夫する。 ③ドリルタイムを活用して基礎・基本の確実な定着を図る。 ④授業評価・授業改善システムを活用して授業改善を図る。
	学力向上委員会		

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市平均を上回っている学力である。しかし、学習意識及び生活意識においては、下学年よりも上学年が、市の平均よりも低い状況にある。生活意識では、「勉強が好きか。」「授業で自分の考えを発表しているか。」という設問で、上学年になるにつれて低い状況にあることから、自分の考えを表現・交流し、友達と学ぶ楽しさに気付く授業づくりが全学年通して求められていると考える。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：現2～6年では、市平均を上回っている。「話す・聞く」で下回る学年が3学年ある。
- 算数科：全ての学年で市平均を上回っている。「技能」で下回っている学年が2学年ある。
- 社会科：4学年中2学年が市平均を下回っている。中でも「知識・理解」が低い。
- 理科：4学年中3学年が市平均を上回っている。「思考・表現」で下回る学年が2学年ある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成25年度から27年度過去3年間の経年変化の状況から、学校全体として、学力では大きく変化はないが、毎年6年生が市平均と同じか少し低くなっている状況が見られる。学習意識に関しては、高学年で少し低くなる傾向があるが、前年度より高まっている学年もある。また、生活意識では、低学年では大幅に市平均を上回っているのに対して、高学年で下がっている学年もある。「自分の考えの発表」や「ノート工夫」「授業の分かりやすさ」などが上回っている。学習意識では、「○○の教科が好きか」という問いに対して、市平均と同じくらいの割合で「好き」と答えている。

経年変化の状況から、今後も自分の考えをしっかりとち、伝え合い、友達と学ぶ楽しさに気付く授業づくりを行う必要がある。自分の考えを表現・交流する際には、課題に対する自分なりの考えを、一人ひとりがもてるように指導を工夫することが大切である。

3 平成 28 年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 学習の目当てを明確にし、児童が目的をもって学習に取り組むことができるようにする。
- 具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人との関わりから、感じたことや考えたことが伝えられる学習を大切にしていく。
- 基礎・基本になることを、反復学習を通して身に付けることができるようにする。

2 学年

- 学習したことがしっかり定着するよう、既習事項をふり返りながら学習に取り組んだり、学んだ知識を自分の言葉で友達に伝えたりする機会を進んで取り入れる。
- 漢字や計算など、自らどのくらい習熟したかどうかを確認できるようにすることで、自分の自信につなげるとともに、意欲的に学習に取り組めるようにする。

3 学年

- 既習を生かし、新たな発見から新しい課題を見つけて主体的に取り組む力を育成する。
- 友達とのかかわりの中で発見したことを認めたり自分の考えに生かしたりしながら学習を進め、互いの良さを見出すことができるような指導をする。
- 自分の言葉で相手に伝えたり伝える手段を生かしたりして、交流を楽しむ機会を設ける。

4 学年

- 社会・理科等で課題解決に向けて思考・判断、表現するなどの場面を大切に、学習意欲が継続的に喚起されるように単元構成をする。
- 筋道を立てて自分の考えを話したり、相手の考えを受け止めて自分の考えを返したりしながら話し合えるように指導する。
- 順序を付けたり関連付けたりして考える学習を計画的に行う。

5 学年

- 課題に対して自分の思いや考えをもち、課題を解決できるように基礎的・基本的学習内容の習熟を図る。
- 根拠を明確にして相手に話したり、聞きとった内容を自分の考えと比較し、経験を加えて拡張したりして話し合うように指導する。
- 関連付けたり分類・整理したりして考える学習と振り返りを計画的に位置付ける。

6 学年

- 問題解決の能力を伸ばすとともに、自らの課題を解決する学習を通して、基礎・基本の習熟を図る。
- 年間を通して、学年全体で計画的に小テストを行い、繰り返し習熟に取り組んでいく。
- 互いの考えを尊重しながら、学習に積極的に取り組めるよう、あたたかい聞き方・やさしい話し方ができるようにする。

個別支援学級

- 子ども一人ひとりの実態把握を行い、個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づいた支援や指導を行う。友達同士のとの関わり合いを広げ、子どもの実態や発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を活用する場を位置付ける。
- 子どもが進んで学習に取り組み、課題解決のために考えることができるように見通しをもたせる。教材教具の工夫を行い、具体物を用いたり体験的な活動をしたりして、理解を深める指導をする。